



報告書抄録

ふりがな	なにわきゆうしのけんきゆう だい19							
書名	難波宮址の研究 第十九							
編著者名	谷崎仁美 京嶋覚 小田木富慈美 白石純 渡辺正巳 丸山真史 赤田昌倫 池田研 田村朋美 小倉徹也							
編集機関	公益財団法人 大阪市博物館協会 大阪文化財研究所							
所在地	〒540-0006 大阪市中央区法円坂1-1-35 TEL.06-6943-6833							
発行年月日	西暦 2013年10月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
難波宮跡 大坂城跡	大阪市中央区法円坂 2丁目1-14	27128	-	34° 40' 44"	135° 31' 07"	20120817 ～ 20130130	1,889㎡	宿舍および 商業施設建 設工事
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		
難波宮跡	都城跡	古墳時代以前		谷		弥生土器・土師器・須恵器・土錘・ 鉄刀茎・動物遺体(ウシ・ウマ)		
		飛鳥時代		獨立柱建物・塀・溝・ 土壇・谷		土師器・須恵器・土錘・瓦・木製品(人 形・斎串・横櫛・釘形・鐵形・琴柱・ アカ取・鋤柄)・ガラス玉鑄型・ガ ラス玉・滑石製白玉・鹿角製品・動 物遺体(ウシ・ウマ)		
		奈良時代				土師器・瓦・U字形鋤先		
大坂城跡	城館跡	豊臣期		礎石建物・溝・井戸・ 土壇		土師器・瓦質土器・国産陶器・中国 産磁器・朝鮮半島産磁器・漆碗・下駄・ 櫛・曲物・横櫛・墨書板材・動物遺 体		
		徳川期		石列・井戸・土壇・土 採り遺構		土師器・国産陶磁器・瓦・垣塙・動 物遺体		
要約	<p>調査地は古代難波宮の中心から西方400mに位置し、近世の大坂城では豊臣氏大坂城三ノ丸の南西部、徳川氏大坂城外濠から南西500mに位置する。</p> <p>調査では、西部で前期難波宮期の官衛と推定される獨立柱建物5棟、塀2列を検出し、その東側では谷を検出した。谷からは古墳時代から飛鳥時代の土器・木製品等の大量の遺物が出土し、7世紀中葉の厚い整地層が確認された。これらは7世紀中葉の難波宮内に配置された官衛とその建設に伴う整地工事の痕跡と推定され、難波宮西方官衛がここまで及んでいたことを示す。</p> <p>谷内の上層では豊臣前期の礎石建物や井戸・側面を板と杭で土留めした溝などが検出され、土器・陶磁器・木製品などが多数出土した。17世紀に下る資料が少なく、三ノ丸建設に際して屋敷地が廃された可能性がある。徳川期には全域で主に18世紀以降の井戸・土壇・土採り遺構などが検出された。絵図によれば当地には各種奉行屋敷や代官所などが存在しており、それらと関連する資料といえる。</p>							